

V 資料

平成 **28** 年度

杉並区「特定の課題に対する調査意識・実態調査」結果概要

中学校での「**底上げ**」進展、学力は「**上昇**」へ期待

平成28年8月9日（火）
杉並区立済美教育センター

平成28年度結果の

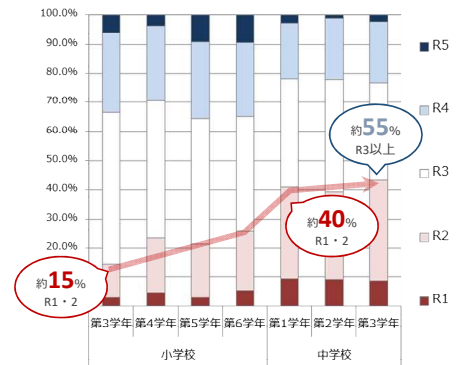
Point **1** 学習指導要領の実現状況、**上昇**へ期待

(1) 中学校第3学年のR3以上の割合（平成27年度比）

⇒ **55.1%**（+**3.9**ポイント） ※3教科等の平均
上昇へ期待高まる

(2) つまずき・学び残しの状況

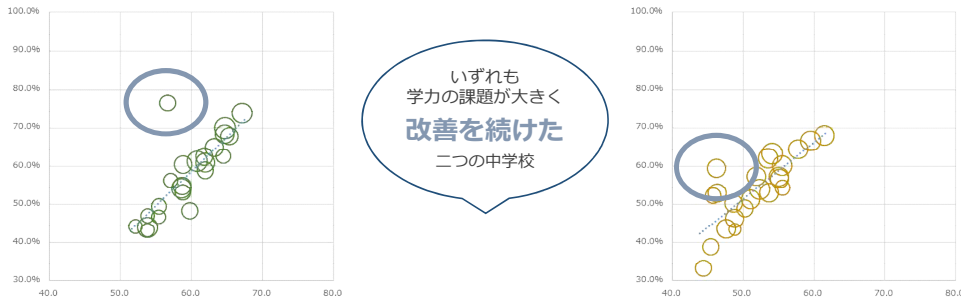
⇒ 小学校第3学年では**約15%**の児童に
学年・校種の進行に伴い増加、
中学校第1学年では**約40%**の生徒に発生



平成28年度 調査結果 全学年
学力段階（R1～5）の割合、実施教科等平均

Point 2 期待の背景、中学校での底上げ進展

- (1) 平均からの期待よりも、R3以上の割合が高い学校の出現
⇒ 平均正答率は、**学校外教育機会**の利用率の影響大
R3以上の割合は、**R2**を契機とした**学校の取組**で改善可



平成28年度 調査結果 左：中学校第2学年、右：中学校第3学年
平均正答率（横軸）× R3以上の割合（縦軸）× 学校外教育機会利用率（サイズ）

Point 3 底上げの背景、9年間の学びの連続

- (1) 小学校 段階「R1は**小学校**からの積み上げが大きく影響」
⇒ **算数科** を中心とした **主体的・対話的な学びの展開**
取組例：R4, 5が中心の教師主導・一斉講義からの脱却、問題解決的な学習へ
= **全ての児童が主体**となり、**ペア**を中心とした対話で深める学びの展開
その効果は他教科等や支持的な学級集団の醸成、生活態度全般にも波及
学ぶことを楽しむ教師コミュニティの醸成
- (2) 中学校 段階「R2は**中学校**からでも十分改善できる」
⇒ **数学科** を中心とした **主体的・対話的な学びの連続 = 発展**
取組例：小学校の取組の発展、**適切な課題さえ与えれば自ら学び深める**生徒たち
校種を超えて学び合う教師コミュニティの形成へ

※各教科・学年の調査用紙及び回答用紙、解答 pp. 156-213.

平成 28 年度 杉並区教科等教育推進委員会 (平成 28 年 9 月 1 日現在)

杉並区教科等教育推進委員会 (国語部会、算数・数学部会、理科部会、外国語部会)					
役職・所属部会		氏名	所属杉並区立教育機関	職	
委員長		白石 高士	済美教育センター	所長	
委員	国語部会	小学校作業部会			
		前田 佐和子	四宮小学校	校長	
		鈴木 知徳	杉並第一小学校	校長	
		松野 泰一	馬橋小学校	校長	
		沼田 操	高井戸東小学校	校長	
		小田 容弘	済美小学校	校長	
		依田 亜希子	桃井第一小学校	主任教諭	
		今泉 真里恵	高井戸小学校	主任教諭	
		山本 瑠香	方南小学校	主任教諭	
		瀧島 二葉	高井戸東小学校	主任教諭	
		安原 智華	永福小学校	主任教諭	
		山本 真実	杉並第四小学校	教諭	
		宇賀神 政裕	高井戸第四小学校	教諭	
		中学校作業部会			
	萩原 正巳	高井戸中学校	校長		
	小松崎 浩	東田中学校	校長		
	阪井 可奈子	中瀬中学校	主幹教諭		
	大内 久美子	富士見丘中学校	主任教諭		
	都木 求枝	杉並和泉学園中学部	主任教諭		
	一瀬 知未	荻窪中学校	教諭		
	委員	算数・数学部会	小学校作業部会		
			黒川 雅仁*	杉並第八小学校	校長
斉藤 境栄*			杉並第十小学校	副校長	
室伏 千絵			杉並第一小学校	主幹教諭	
小島 直久			東田小学校	主幹教諭	
塩田 弥生*			杳掛小学校	主幹教諭	
尾寄 祐子*			富士見丘小学校	主幹教諭	
山田 尚人*			三谷小学校	主幹教諭	
増本 敦子*			西田小学校	主任教諭	
安田 富士成			桃井第三小学校	主任教諭	
渡辺 徹也			済美小学校	主任教諭	
中村 淳一*			東田小学校	教諭	
山浦 光沙			方南小学校	教諭	
山里 幸恵			杳掛小学校	教諭	
岡部 洋右		久我山小学校	教諭		
中学校作業部会					
山内 清一		杉森中学校	校長		
横田 和長		高円寺中学校	副校長		
村山 忠久		井草中学校	副校長		
神山 洋之		神明中学校	副校長		
立花 忠司		松溪中学校	主幹教諭		
相澤 祥隆		松溪中学校	主幹教諭		
押野 直人	和田中学校	主任教諭			
小美野 祐輔	井草中学校	教諭			
中川 俊也	富士見丘中学校	教諭			
委員	理科部会	小学校作業部会			
		丸山 麻雄	桃井第五小学校	校長	
		師岡 孝明	杳掛小学校	校長	
		馬場 章弘	高井戸第三小学校	副校長	
		福原 信明	方南小学校	主幹教諭	
		伊藤 知子	桃井第五小学校	指導教諭	
		藤本 美智子	杉並第十小学校	主任教諭	
		永田 量子	桃井第四小学校	主任教諭	
		古野 博	井荻小学校	主任教諭	
		川崎 史子	杳掛小学校	主任教諭	
		加藤 清隆	松庵小学校	主任教諭	
		坂部 重敬	堀之内小学校	主任教諭	
藤原 和也	天沼小学校	教諭			

役職・所属部会		氏名	所属杉並区立教育機関	職	
委員	理科部会	中学校 作業部会	橋本 剛	高円寺中学校	校長
委員			賀屋 寛	東原中学校	副校長
委員			石津 祐次	井荻中学校	副校長
委員			藏石 敏瑞	松溪中学校	主幹教諭
委員			中島 誠一	阿佐ヶ谷中学校	主任教諭
委員			横井 弘	神明中学校	主任教諭
委員			齋藤 祐子	高円寺中学校	教諭
委員			遠藤 孔明	中瀬中学校	教諭
委員	外国語 部会	小学校 作業部会	福田 晴一	天沼小学校	校長
委員			新井 晶子	松ノ木小学校	副校長
委員			澁谷 あゆみ	久我山小学校	主幹教諭
委員			木村 美穂	桃井第三小学校	主任教諭
委員			高田 友佳子	松庵小学校	主任教諭
委員			片岡 望	杉並和泉学園小学部	主任教諭
委員			白井 千晴	西田小学校	教諭
委員			菅野 武彦	向陽中学校	校長
委員		中学校 作業部会	金子 敏治	井草中学校	主幹教諭
委員			大川 照美	東原中学校	主任教諭
委員			三木 初香	中瀬中学校	主任教諭
委員			谷口 富子	高南中学校	教諭
委員			脇 真弓	井荻中学校	教諭
委員			村山 律子	杉並和泉学園中学部	嘱託教員

※算数・数学部会 小学校作業部会の*は、調査や本報告書の作成に携わった委員

事務局(杉並区立済美教育センター)		
統括指導主事	大島 晃(主担当) 手塚 成隆、佐藤 正明(就学前教育担当課長)	
主任研究員	山口 裕也	
指導主事	小熊 隆一(主担当) 川畑 淳子、森 勇人、保土澤 尚教、松田 亮一 古澤 隆信、勝呂 創太	
研究員	国語科	三上 はるひ、林 真由美
	算数・数学科	高槻 義一、宮山 延敬、坂元 良博、椎名 直幸
	外国語	石川 史子
理科指導員	小山 浩、岡崎 滋	

※本委員会は、杉並区「特定の課題に対する調査」について、平成28年度調査結果の分析と考察(本報告書の作成)、平成29年度調査の企画を行うことを本務の一つとする。

※杉並区教科等教育推進委員会は、(旧)学力向上調査委員会、理科教育推進委員会、体力向上調査委員会を発展的に統合した、済美教育センター所長を委員長とする平成27年度新設の委員会である。平成28年度は、通常(常設)部会に国語、算数・数学、理科、外国語、体育・健康を、特別(臨時)部会に社会科副読本、総合的な学び、ICT利活用の計8部会を設置し、杉並教育研究会等と協働して教科等教育を振興している。(体育・健康部会、社会科副読本特別部会、総合的な学び特別部会、ICT利活用特別部会は杉並区「特定の課題に対する調査」の作成等を本務としないため、本名簿には記載していない。)

平成 27 年度 杉並区教科等教育推進委員会 (平成 27 年 9 月 1 日現在)

杉並区教科等教育推進委員会 (国語部会、算数・数学部会、理科部会、外国語部会)					
役職・所属部会		氏名	所属杉並区立教育機関	職	
委員長		白石 高士	済美教育センター	所長	
委員	国語部会	小学校 作業部会	前田 佐和子	四宮小学校	校長
			鈴木 知徳	杉並第一小学校	校長
			松野 泰一	馬橋小学校	校長
			依田 亜希子	桃井第一小学校	主任教諭
			千葉 一成	桃井第五小学校	主任教諭
			中村 恵	高井戸小学校	主任教諭
			川上 真理子	西田小学校	教諭
		宇賀神 政裕	高井戸第四小学校	教諭	
		阿木 智華	永福小学校	教諭	
		萩原 正巳	松ノ木中学校	校長	
		小松崎 浩	東田中学校	校長	
		大内 久美子	富士見丘中学校	主任教諭	
		石田 富士子	松ノ木中学校	主任教諭	
		都木 求枝	和泉中学校	主任教諭	
委員	算数・数学部会	小学校 作業部会	黒川 雅仁	杉並第八小学校	校長
			牧岡 正敏	高井戸第三小学校	校長
			室伏 千絵	杉並第一小学校	主幹教諭
			塩田 弥生	沓掛小学校	主幹教諭
			尾寄 祐子	富士見丘小学校	主幹教諭
			須田 由美子	堀之内小学校	主幹教諭
			吉田 映子	高井戸第三小学校	指導教諭
			桑山 賢司	杉並第七小学校	主任教諭
			増本 敦子	西田小学校	主任教諭
			小島 直久	東田小学校	主任教諭
			清原 正之	荻窪小学校	主任教諭
			富樫 史帆	東田小学校	教諭
			中村 淳一	東田小学校	教諭
		工藤 尋大	井荻小学校	教諭	
		山里 幸恵	沓掛小学校	教諭	
		岡部 洋右	久我山小学校	教諭	
		山内 清一	杉森中学校	校長	
		横田 和長	高円寺中学校	副校長	
		立花 忠司	松溪中学校	主幹教諭	
		相澤 祥隆	荻窪中学校	主幹教諭	
西尾 芳秋	高井戸中学校	主任教諭			
中川 俊也	富士見丘中学校	教諭			
委員	理科部会	小学校 作業部会	丸山 麻雄	桃井第五小学校	校長
			山口 京子	沓掛小学校	副校長
			馬場 章弘	高井戸第三小学校	副校長
			福原 信明	方南小学校	主幹教諭
			伊藤 知子	桃井第五小学校	指導教諭
			永田 量子	桃井第四小学校	主任教諭
			勝呂 創太	荻窪小学校	主任教諭
			川崎 史子	沓掛小学校	主任教諭
			加藤 清隆	松庵小学校	主任教諭
			坂部 重敬	堀之内小学校	主任教諭
			古野 博	井荻小学校	教諭

役職・所属部会		氏名	所属杉並区立教育機関	職	
委員	中学校 作業部会	橋本 剛	高円寺中学校	校長	
		石津 祐次	泉南中学校	副校長	
		藏石 敏瑞	松溪中学校	主幹教諭	
		中島 誠一	阿佐ヶ谷中学校	主任教諭	
		横井 弘	神明中学校	主任教諭	
		齋藤 祐子	高円寺中学校	教諭	
		遠藤 孔明	中瀬中学校	教諭	
委員	小学校 作業部会	佐々木 恵子	松庵小学校	校長	
		新井 晶子	松ノ木小学校	副校長	
		澁谷 あゆみ	久我山小学校	主幹教諭	
		片岡 望	杉並和泉学園小学部	教諭	
	外国語 部会	中学校 作業部会	菅野 武彦	向陽中学校	校長
			金子 敏治	井草中学校	主幹教諭
			平出 敏	東田中学校	主任教諭
			大川 照美	東原中学校	主任教諭
			三木 初香	中瀬中学校	主任教諭
			脇 真弓	井荻中学校	教諭

事務局(杉並区立済美教育センター)	
統括指導主事	大島 晃(主担当) 手塚 成隆
主任研究員	山口 裕也
指導主事	森 勇人(主担当) 保土澤 尚教、小熊 隆一
研究員	国語科 三上 はるひ、林 真由美
	算数・数学科 高槻 義一、宮山 延敬、坂元 良博 椎名 直幸、吉田 正
	外国語 石川 史子
理科指導員	小山 浩、岡崎 滋

杉並区立済美教育センター
統括指導主事 大島 晃

次期学習指導要領の改訂に当たっては、子どもたちに、先行き不透明なこれからの社会を自立的に生きる力を育み、自分の人生や社会をよりよいものにしていくために、「何を学ぶか」ということだけでなく、「どのように学ぶか」ということも重視していく方向性が示されました。

その中で、「アクティブ・ラーニング」の推進が求められおり、大きく次の3つの視点から授業改善を図る必要があります。1点目は、学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。2点目は、子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。3点目は、各教科等で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

こうしたアクティブ・ラーニングの視点に立った授業を日常的に展開していくうえで、本調査結果をみると、本区の強みは、児童・生徒の「相互承認の感度」が高いところといえます。友達の意見を大切にすることが強く、自分の考えや気持ちを理解してくれる友達がいると感じている児童・生徒が多い現状にあります。また、充実したICT環境は、児童・生徒一人一人の思考の表出を容易にしており、特に小学校においては、学年進行に伴い、このことに対する肯定率が上昇する傾向がみられました。

本区の弱み、課題としては、授業中に自分の考えや気持ちを発表することがよくあるのはR4・5の児童・生徒が中心であること、協働学習へ能動的に参加できているのはR3以上の児童・生徒が主であること、ICTについては教師の教材提示的な活用については定着しつつあるものの、教師と児童・生徒、児童・生徒同士の双方向的な活用については十分ではないことが挙げられます。

本区の強みを生かし、課題を克服するために必要なことは、教師自身がアクティブ・ラーナーとなって授業改善を図ることと考えます。

この夏、済美教育センターから7割強の学校の学力向上校内研修会へ、講師派遣を行いました。今年度は「クロスバブルチャート」を教師自らがコンピュータで操作し、学力と意識・実態との相関をみながら個々の児童・生徒の学力状況を分析できるよう準備したこともあり、多くの教師がアクティブ・ラーナーとなって、主体的に、対話的に、2学期以降の授業について検討できました。

一人一人の教師がこのように児童・生徒理解に努め、調査結果を授業改善に生かし、その成果を児童・生徒の育成につなげることができれば、それは教育方法の連続性を確保することとなり、「義務教育9年間を通した主体的・対話的で深い学び」の実現に迫ることができます。この夏の実践を、日々の「指導と評価の一体化」に応用し、児童・生徒の学力向上、ひいては、自立して生き、自分の人生や社会をよりよいものにしていく資質や能力の育成につなげていただくことを期待します。

アクティブ・ラーニングの視点に立った授業の推進は、「杉並区教育ビジョン 2012」の目標である「共に学び共に支え共に創る杉並の教育」の推進と軌を一にするものであると捉えています。今後、より一層の充実に向けて、教育委員会としては、各学校の取組を多面的に支援してまいります。

平成 28 年 11 月

平成 28 年度 杉並区
特定の課題に対する調査、意識・実態調査 報告書

平成 28 年 11 月 発行

登録印刷物番号
28-0062

調査機関・編集発行 杉並区立済美教育センター
〒166-0013
杉並区堀ノ内二丁目 5 番 26 号
電 話 03(3311)0021

